

～コナラ・タカノツメ・カエデ

師走の森で 色と光を楽しもう～

相生山の四季を歩く会 2016.12.11

コナラ(小櫓) ブナ科コナラ属
 別名:ホウソ、ハハソ、ナラ
 落葉高木、雑木林を代表する樹。
 互生。雌雄同株。葉身:倒卵形、
 洋紙質、大型の鋸歯。鱗芽。
 堅果(どんぐり)、殻斗うろこ状。
 ナラ枯れ←カシノナガキクイムシ。
 相生山のコナラの樹齢:50～80年。
 シンボルコナラの樹高:13.6m
 胸高直径:105.5cm (2016.8)



ラブリーアース ホームページより
 森のひとり言 by 北岡明彦

その六拾九 : 落ち葉ひろいの楽しみ (2)

10月下旬から11月初旬にかけて、ブナ林の林床は赤や黄色の落ち葉で地表が敷きつめられます。

特に、さまざまな形と色のバラエティーに富んだカエデ類の落ち葉拾いは、古くから日本人の秋の楽しみでした。

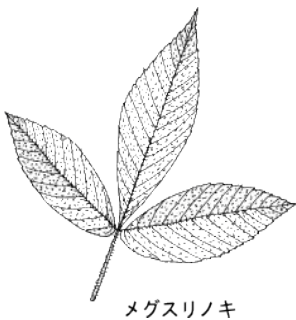
日本はカエデの種類が非常に多く、26種ほど知られています。

私のフィールドである、豊田市稲武町にある面の木峠ブナ原生林周辺では、1日で18種類ものカエデを見ることができます。

紅葉は、チドリノキ・カジカエデ・マルバカエデ・イタヤカエデ類・ヒナウチワカエデは黄色に、メグスリノキ・ミツデカエデ・ハウチワカエデ・オオイタヤメイゲツ・コハウチワカエデ・コミネカエデ・オオモミジ・ウリハダカエデは主に赤色に色づきます。しかし、赤色になる種類は、光条件によって黄色になる場合があります。

なかでも一番のおすすめは、メグスリノキです。葉は1回3出の複葉で、名前もカエデらしくありませんが、その紅葉はナンバー1です。

表面が美しい赤色になるだけでなく、葉裏が白色を帯びていることから、青空に透かして見るメグスリノキの紅葉は本当に素敵です。



メグスリノキ

残念ながら見事な赤色はすぐに色褪せし、葉もバラバラに分解しやすいことから、紅葉の押し葉づくりが難しい種類です。それだけに、上手に押し葉が出来た時の嬉しさはひとしおです。

「楓の落ち葉色々押し葉づくり」はとても楽しい作業です。
 愛知県のカエデ総集め、日本のカエデ総集めに挑戦してみたいかたがでしよう。

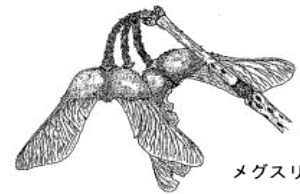


タカノツメ(鷹の爪)←冬芽の形から
 ウコギ科タカノツメ属 別名:イモノキ
 落葉亜高木～高木。互生、3出複葉。
 短枝が発達。雌雄別株。液果。山菜。



いろはもみじ

カエデ(楓)属←蛙手 ムクロジ科
 高木～亜高木。対生。翼果。



メグスリノキの実

《カエデ属のなかま…葉形で区分》

- ・複葉……………メグスリノキ
- ・単葉
- ・心円……………マルバカエデ
- ・長楕円……チドリノキ
- ・卵～3裂……ウリカエデ、ハナノキ
- ・3～5裂で五角形……ウリハダカエデ
- ・5～7裂でカエデ型
- ・全縁…イタヤカエデ、エンコウカエデ
- ・粗大鋸歯……カジカエデ
- ・細鋸歯……いろはもみじ、オオモミジ
- ・9～13裂……ハウチワカエデ

連絡先(古川)

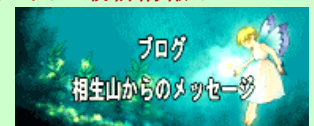
tell/fax : 052-821-6463

ケイタイ : 080-5124-6463

e-mail : viva_forest@yahoo.co.jp

ホームページ : ラブリーアース → 検索

相生山の最新情報は



応援よろしくお祈りします

次回は 新年 1月8日(日) 10:00～12:00
 おめでたい植物を探して歩きます 鷹が飛ぶといいですね

その六拾八 : 落ち葉ひろいの楽しみ (1)

晩秋の楽しみのひとつに紅葉狩りがあります。

今でこそ、紅葉の代表はイロハモミジの赤色ですが、もともと「こうよう」は黄葉と書き、紅葉になったのは平安時代以後といわれています。しかし、平安時代にもコナラの黄葉を愛でた和歌が知られています。

佐保山の ははその色は 薄けれど 秋は深くも なりにけるかも
坂上是則 (古今和歌集)

【歌意】 (黄葉の名所である) 奈良の佐保山にあるコナラの黄葉は淡い色ではあるけれども、秋は確実に深まっているのだなあ…。



コナラ

里山のコナラやアベマキの黄葉は、ほんの数日だけ美しい黄色に輝いた後、茶褐色に変わります。

特にモンゴリナラは最もきれいな黄色になります。

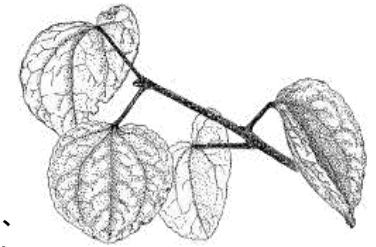
タカノツメも美しく黄葉し、身近な森で赤く色づくのはサクラ類やウルシ類くらいです。サクラ類やウルシ類は最も早く色づき落葉してしまうため、最盛期には里山は見事に黄葉します。しかし、その色は同じ黄色でも樹種により少しずつ異なり見事なグラデーションとなります。

平安時代以後に、イロハカエデを主とした赤く色づく樹木が神社、仏閣や行楽地などに多く植えられるようになり、徐々に「こうよう」は黄葉から紅葉に変わっていったのです。

その七拾 : 落ち葉ひろいの楽しみ (3)

落ち葉の押し葉作りとともに、落ち葉ひろいの楽しみが、「匂い袋」作りです。

晩秋にブナ林の溪流沿いを歩いていると時々、お香のようなカラメルを焦がしたような良い匂いのすることがあります。これはカツラの落ち葉が茶褐色に変色する時の匂いです。



カツラはブナ帯の沢沿いに生える落葉性大高木で、万葉集の時代から「香出(かいず)」と呼ばれており、古来より「お香」の原料として使われてきました。

愛知県では数少ない樹木ですが、岐阜県や長野県の山間部では良く見られ、飛騨市の天生(あもう)渓谷で見られるカツラ巨木林は実に見事です。10月中旬に天生渓谷は黄葉の最盛期を迎え、林内はカツラの香ばしい匂いに満ちます。ブナの黄葉カエデ林の紅葉と相まって、最高の気分になることができます。

このカツラの落ち葉を使った「匂い袋」がおすすめです。黄色に変色したカツラの葉を20~30枚拾って、布製の小袋に入れるだけで完成です。良い香りがしばらく続き、ちょっと霧吹きで少し湿り気を与えると、また匂うようになります。古人の雅(みやび)を少しだけ感じられます。

一方里山では、タカノツメの黄葉がよく似た匂いを発します。これも晩秋の里山歩きの楽しみのひとつです。

しかし、何と、くさい臭いを発する落ち葉もあります。それはウワミズザクラです。若葉や実が杏仁の香りを持つ種類ですが、なぜか落ち葉はいやな臭いを出します。

五感を使った自然観察、本当に楽しいですね

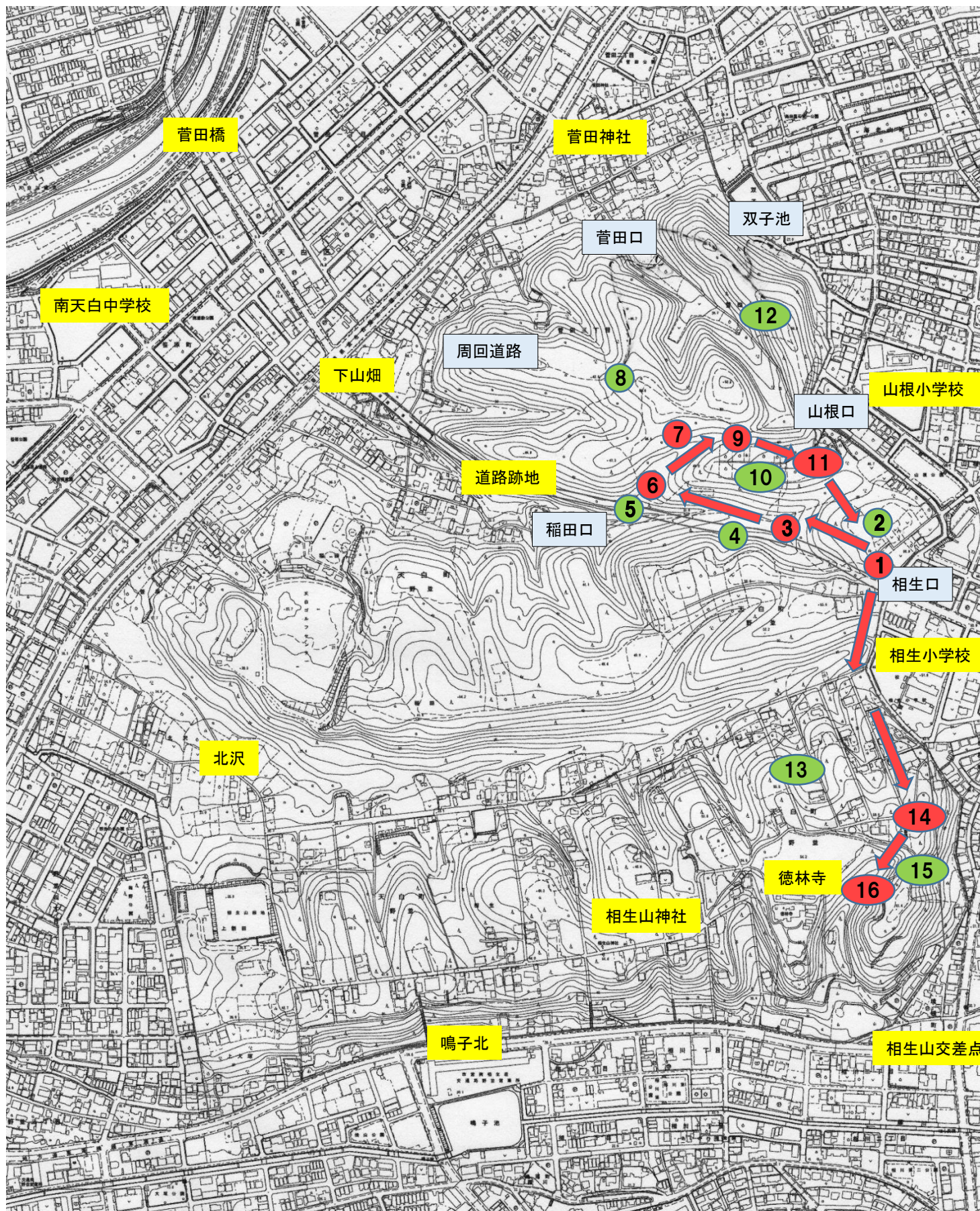


昭和22年撮影



昭和58年 5月撮影

相生山の四季を歩く会 2016.12 コース



1	相生口	5	ギャップ	9	ひろば	13	南部住宅地
2	竹林	6	ヤマコウバシ木道	10	梅畑	14	葉書塔
3	ヒメササキの谷	7	ガマズミ道	11	シンボルコナラ	15	崖上の道
4	人工林	8	展望台跡	12	北尾根	16	もみじ谷